

Charm Access
チャームアクセス

「あって当たり前プロジェクト」

生理用ナプキン備品化ガイド

Ver.1.0 20261119

本書を読むとわかる３つのこと

トイレットペーパーは、多くの施設で「備品」として当たり前に設置されています。
一方で、生理用品は、多くの場合「個人で用意するもの」と考えられています。
しかし、働き方や社会環境が大きく変化した今、その常識は現在の職場環境に合っているのでしょうか。

本資料では、企業や学校で生理用品を備品化する意義を、客観的なデータや事例をもとに整理し、
導入時に多く寄せられる懸念とその解決策についてご紹介します。

1. **なぜ今、生理用品の備品化が求められているのか**
2. **導入時によくある不安とその解決策**
3. **組織にもたらす効果と導入のポイント**

目次

01 **なぜ今、生理用品の備品化が必要なのか** …… P.03
働き方の変化／職場環境のギャップ

02 **生理用品の備品化という解決策** …… P.9
安心して働ける環境づくり

03 **導入時によくある不安と解決策** …… P.10
費用／社内理解／補充・管理

04 **導入方式の比較と選び方** …… P.15
設置環境と運用に合った方式を選ぶ

05 **チャームアクセスの特長** …… P.18
製品概要

06 **導入事例** …… P.19
企業・学校での取り組み

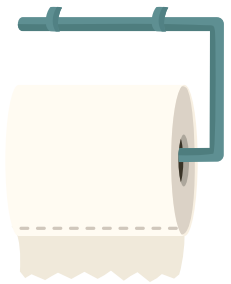
07 **導入までの流れ** …… P.21
無料トライアルから本導入まで

Section1

なんでないの？トイレにナプキン。

なぜ、トイレットペーパーは備品で
生理用品は個人負担なのでしょうか？

排泄

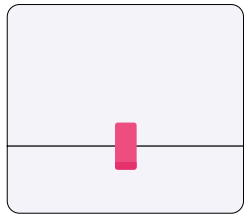


施設・企業が常備するのが当たり前。
公的な備品とされている。

どちらもコントロールできない生理現象

＝

生理



個人で準備・管理するのが身嗜み。
自己責任とされている。



排泄も生理も、「**人間の尊厳と衛生に関わる当たり前の現象**」です。
生理用品もトイレットペーパーと同じように、誰もが安心して使える社会インフラへ見直す時期が来ています。

Section1

働き方は変わったのに、職場の設備は変わっていない

多くのオフィス設備や労働制度が整備された昭和中期、
職場環境や制度は「男性中心・フルタイム、女性は補助的・短期間」という構造を前提に設計されていた。

昭和中期

ソフトウェア（人材）

男性中心・フルタイム
女性は補助的・短期間



ハードウェア（設備）

男性中心の長時間労働に最適化された設備構成。
月経は長年、『隠すべきもの』とされており
生理用品は女性の「たしなみ」とされてきた。

時代とともに変化

現在

多様化・柔軟な働き方が当たり前。
女性が意思決定を担う中核人材として活躍。
個性・能力を活かす組織へと進化。



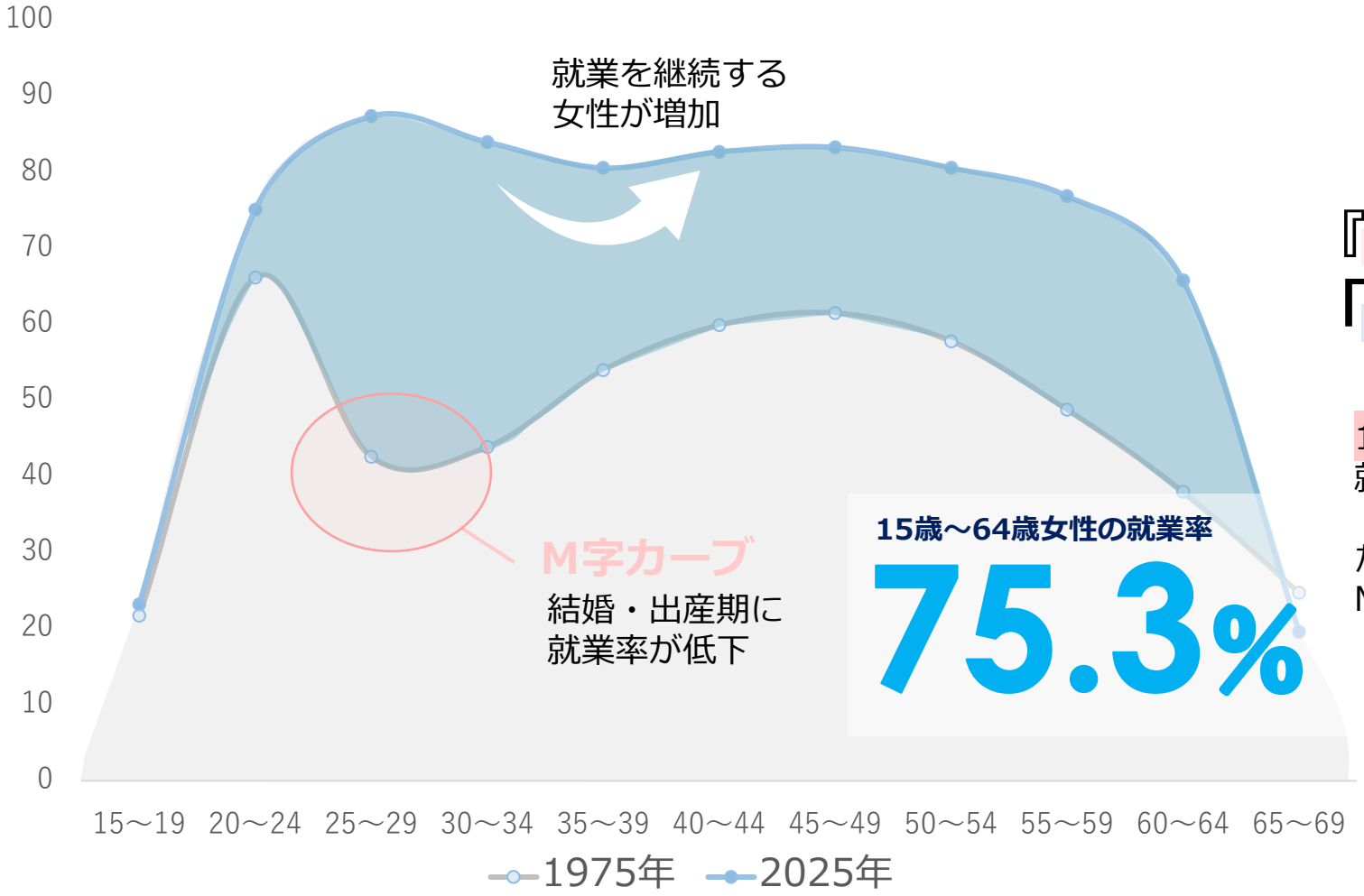
数十年分アップデートされないまま、
昭和の前提を引きずり続けている。
設備側は「何も変わっていない」状態。

ソフトウェア(人材)は時代とともに変化したのに・・・

ハードウェア(設備)は取り残されたまま。

Section1

女性の就業継続が進み、M字カーブはほぼ解消へ



出典：内閣府「平成17年版 男女共同参画白書」「令和8年版 男女共同参画白書」より作成

『結婚・出産で離職』から「働き続ける」へ

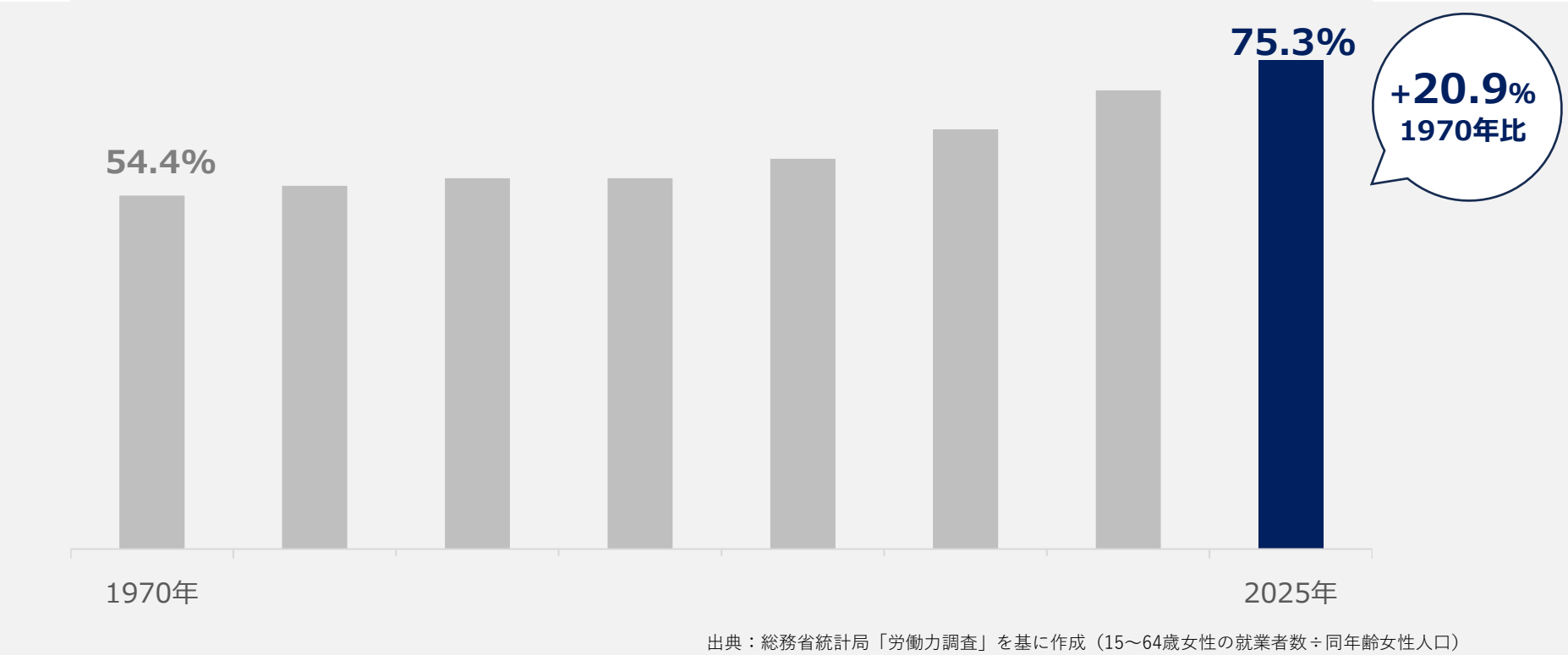
1975年には結婚・出産期にあたる30歳前後で
就業率が大きく低下する「M字カーブ」が見られた。

だが2025年には30～40代の就業率も大きく上昇し、
M字カーブはほぼ解消している。

Section1

女性の就業率は過去最高を更新

女性就業者数は3,000万人を突破



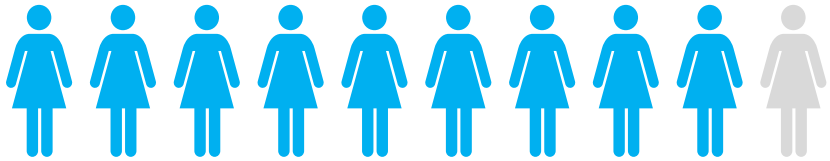
出典：総務省統計局「労働力調査」を基に作成（15～64歳女性の就業者数÷同年齢女性人口）

働く女性の増加に伴い、 企業には女性向け職場環境整備が求められています。

Section1

「突然の生理」発生時に引き起こす行動パターンと見えない損失

90%以上の女性が、以下の行動を余儀なくされています。



※当社調べ（2023~2025年累計実績）



自席まで取りに行く

5分

業務や学習を一時中断し、
自席とトイレを往復します。

ナプキンを持って移動する際、
周囲の視線が気になるストレス。



同僚に借りる

10分

同僚に合間をみて声をかけ
持っているかを確認。

借りる側と貸す側の両方のタイムロスに。
ここでも周囲からの視線。



コンビニへ買いに走る

15分

建物から移動、会計、帰社といった
大幅な離席

業務や天候などによる
長時間離席の罪悪感

【試算モデル】年間インパクトの数式化（業務ロスの定量化）

ナプキンの調達15分
(平均的なロスタイム)

×

女性従業員数N名
(対象人数)

×

発生頻度 年12回
(月1の生理サイクル)

=

年間 〇〇 時間の損失
(組織全体の隠れた生産性低下)

女性社員100名規模の場合　：　15分×100名×12回＝年間300時間の業務時間損失

Section2

解決策：トイレへの生理用ナプキンの備品化

トイレに生理用品を備えるだけで、女性が安心して働ける・学べる環境を実現できます。
特別な制度変更は不要で、今すぐ始められる実効性の高い施策です。

01

生産性の向上

急な生理にも迅速に対応でき、
業務・学業の継続を支えます。

- 急な生理に即対応
- 離席時間を削減
- 集中力の低下を抑制

02

心理的安心感の向上

生理用品を気軽に利用できる
環境が、女性の安心感と
働きやすさにつながります。

- 借りる心理的負担を軽減
- 経血漏れへの不安を軽減
- 安心して勤務・通学可能

03

BCP対策

災害時の備蓄品としても有効。
女性視点の防災対策として
注目されています。

- 災害時の備蓄品として活用
- 女性視点の防災対策
- 内閣府推奨の備蓄品



**生理用品の常備は、大規模な制度変更を伴わず、
低コストで導入できる女性支援施策です。**

- 働きやすい職場環境の実現
- 従業員の満足度向上
- 持続可能な組織づくりへ

Section3

導入前に多くの担当者が抱える4つの不安

生理用品の設置に関心はあっても、導入にはさまざまな懸念があります。 しかし、その多くは既に解決可能な課題です。

必要以上に持ち帰られない？

本当に必要な人に届かず、
過剰に持ち帰られてしまうのでは…

管理や補充が大変そう

在庫管理や補充の手間が増え、
担当者の負担が大きくなるのでは…



コストに見合う効果はある？

導入・運用コストに対して、どの
程度の効果が得られるのか分からない…

社内で理解を得られるのか

一部の従業員からの反発や、
「福利厚生として必要なのか？」
といった意見が出るのではないか…

これらは実際に多くの導入担当者から寄せられる代表的な不安です。
次のページから、ひとつひとつの不安に対する具体的な解決策をご紹介します。

Section3

導入前の不安を解消①｜必要以上の持ち帰りを防ぐには？

生理用品の常備化・導入を検討する際、多くの総務担当者様が直面するのが
「必要以上の持ち帰りが発生するのではないか」という懸念です。
チャームアクセスは、運用の適正化と利用しやすさを両立した設計で、この課題をクリアします。

【物理的抑止】

PUSH式1枚出し構造

まとめ取りを防ぎ、
1枚ずつしか取り出せない設計。



【心理的抑止】

取り出し口カバー構造

取り出し部分に蓋を設けることで、
周囲の目や動作に配慮しつつ
必要以上の取り出しを自然に防止。



【意識の変化】 常備が当たり前になる未来

1960 年以前



トイレットペーパーの
持ち去りが課題

→

現在

どこにでもあるので
持ち帰る人がいない

生理用品も同じ。環境が整えば、適正な利用マナーが定着します。

実証データ

持ち去り発生率

0 %（ゼロ!!）

※当社調べ（2023~2025年累計実績）

チャームアクセスは
適正な利用と快適な環境を両立した設計で、安心して導入いただけます。

Section3

導入前の不安を解消② ｜社内の理解をどう得るか？

生理用品の常備化にあたり、「一部の従業員だけが得をするのではないか」という懸念を持たれることがあります。
しかし、これはプラスの利益を与える「優遇措置」ではなく、**誰もが快適に働ける環境を整えるためのペインの解消**です。

よくある誤解

特定の性別への
優遇ではないか？



- 特定の性別への優遇に見える
- 公平性に欠けるのではないか
- 利用しない人への配慮が必要

本来の目的

ペインの解消と
インフラ整備



**生理はコントロール
できないもの**

生理による不便や不安
（マイナス）をゼロに
戻すための取り組みです。

- 誰もが安心して働ける環境づくり
- 健康とパフォーマンスの維持
- 多様な人材が活躍できる職場の実現

社内浸透の進め方

理解を深め
定着させる

事前の周知サポート
目的は「優遇」ではなく「ペインの解消」であることを全社へ正しく周知。
案内フォーマットを提供。

**生理痛体験セミナーによる
意識のアップデート**
希望企業に社内ヘルスケアリテラシーを向上させる生理痛体験セミナーを実施することも可能。全従業員で理解を深める。

会社全体のエンゲージメント向上へ
不平等やハレーションを生まない
丁寧なプロセスで進めます。

**正しい理解と丁寧なコミュニケーションで、
全社の納得とエンゲージメント向上につなげます。**

- 社内の理解促進
- 多様な人材の活躍を支援
- ヘルスケアリテラシーの向上
- 公平で働きやすい職場環境の実現

Section3

導入前の不安を解消③｜補充や管理が大変そう…

設置場所を分散することで、利用が一か所に集中しにくくなり、補充の手間を平準化できます。
シンプルな運用フローで、担当者の負担を抑えながら、安定した供給を実現します。

Before　1か所のみの設置

特定のトイレに利用が集中

一部のトイレだけ利用が多い

▼

頻繁な補充が必要

すぐになくなり、補充の回数が増える

▼

担当者の負担が増加

在庫確認・補充対応に時間がかかる

After　複数箇所への分散設置

利用が分散

必要な場所で利用でき、特定の場所に集中しない

▼

補充の平準化

補充の頻度が分散し、計画的な運用が可能

▼

管理がしやすい

担当者の負担を抑えた持続可能な運用体制を実現

分散設置による3つのメリット

利用者の利便性向上
必要な場所で利用でき、安心して過ごせる環境に

業務の効率化
補充作業が平準化し、管理の手間を削減

継続しやすい運用
無理のない運用で、安定した供給を実現

分散設置により、利用者の利便性を向上させながら、補充・管理負担を抑えた運用が可能です。

Section3

導入前の不安を解消④｜備品化の投資効果をどう考えるか？

生理による労働損失や業務パフォーマンスの低下は、企業にとって見えにくいコストです。
チャームアクセスはその課題を解消し、短期的なコスト削減と中長期的な企業価値向上を実現します。

1 すぐに見える効果　導入後、数か月で実感できるコスト削減

生理による労働損失は、想像以上に大きなコストです



急な体調不良による
業務・学習中断



生理痛・体調不良による
パフォーマンス低下



欠勤・不調による
業務の遅延

年間の労働損失
（見えないコスト）
数十万円～
（1人あたり）

→

ディスペンサー本体と
消耗品の投資

月額数千円～へ

→

即座にゼロへ

投資回収は
数カ月で可能！

2 中長期的な企業価値向上　利用者満足度や施設価値の向上につながる



利用者満足度の向上

利用者が安心して学び、働き、
施設を利用できる環境づくりに
貢献します。



採用競争力の向上

施設価値・利用者評価の向上
利用者に配慮した設備として、
施設全体の評価向上に貢献します。



離職防止・定着率向上

急な生理時にも対応できる環境を
整えることで、利用者の安心感向上に
つながります。



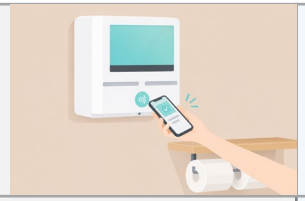
DE&I推進・組織価値向上

女性活躍推進や健康経営として
誰もが安心して利用できる環境づくり
への取り組みとして、
組織の社会的評価向上に貢献します。

生理用品の備品化は、従業員の健康と企業の成長を支える 費用対効果の高い施策です。

Section4

主な生理用品備品化サービス

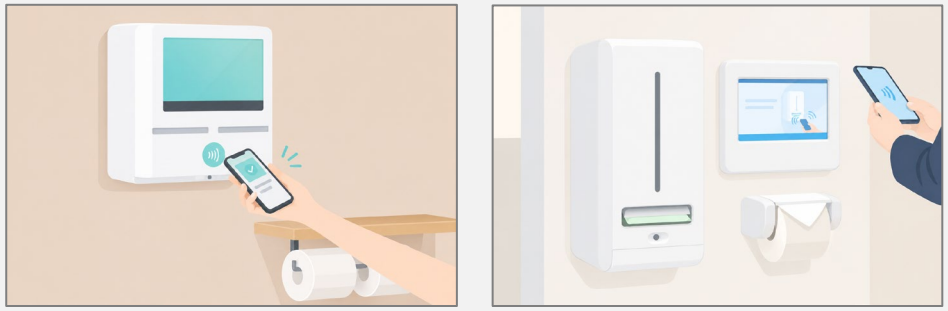
比較項目	サービス連携型 	専用品運用型 	市販品運用型 
提供形態	サービス利用契約	専用品供給型	本体購入型
初期費用	機器代(約10万円～)＋工事費	無料	本体代のみ
ランニングコスト	通信費が発生	専用品購入費が発生	市販品の購入のみ
通信環境	SIMまたはWi-Fi環境が必要	不要	不要
電源	必要	不要	不要
ナプキン提供	広告収益により無償提供 （配布数制限あり）	専用品を購入 （指定商品の利用）	**市販品を自由に調達**
市販ナプキン対応	×	×	◎
ナプキン利用制限	配布枚数制限有	なし	なし
設置方法	壁面固定	据置き	据置き／壁掛け （両面テープで設置）
運用自由度	×	△	◎
主な設置先	駅・商業施設・商業ビル	オフィス・学校・工場・自治体	オフィス・学校・工場・自治体

Section4

導入環境に合わせた運用方式の選び方

不特定多数(パブリック) モデル

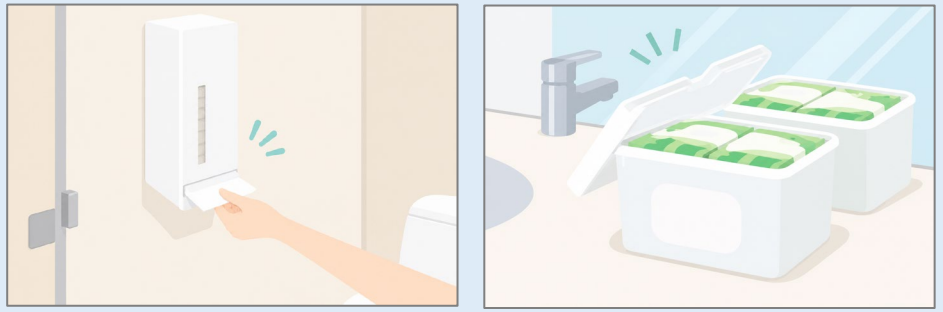
サービス連携型



商業施設・駅・空港などの**公共空間向け**。
広告収益で施設コストゼロを実現しつつ、
アプリ認証で不正取得を防止。

関係者限定(プライベート) モデル

市販運用型／専用製品型



オフィス・工場・学校向け。
アプリや工事が不要で、トイレットペーパーと同等の
「備品」として運用。

**企業・学校では、不特定多数向けサービスよりも、
継続運用しやすい専用品運用型・市販品運用型が適しています。**

Section4

専用品運用型と市販品運用型の違い

オフィス・学校・自治体で比較されることが多い、2つの運用方式の違いを整理しました。

	専用品運用型	市販品運用型
初期費用	無料	本体代のみ
ランニングコスト	専用品の購入が発生	市販品の購入のみ
ナプキンの調達	指定商品の購入	市販品を自由に選択可能
市販ナプキン対応	×	○
調達先	専用品購入	ドラッグストア・ECサイト・卸売など自由に
価格変動リスク	メーカー価格に依存	複数の調達先から選択でき、リスクを分散
運用自由度	△	◎
特長	初期費用を抑えやすい一方で、 利用できる生理用品が限定される。	導入後の運用自由度が高く、利用者ニーズや 予算に応じて生理用品を自由に選択できる。

生理用品の備品化を長期的に運用する場合、導入時のコストだけでなく、
継続的な調達コストや運用自由度も重要な選定ポイントとなります。

チャームアクセスの特長

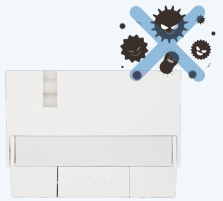
電源不要・手動式の生理用ナプキン専用ディスペンサー



お手入れしやすい樹脂製ボディ



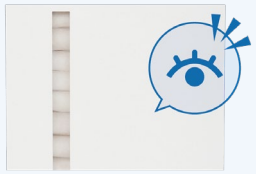
ナプキンが露出せず衛生的



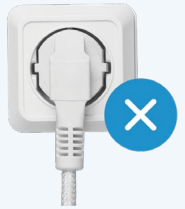
ワンプッシュで1枚ずつ取り出せる



残量が一目でわかる透明窓



電源・工事不要災害時でも使える



前開きで補充が簡単



オリジナルデザイン対応



両面テープで簡単設置



空間に調和しやすい選べる2色展開



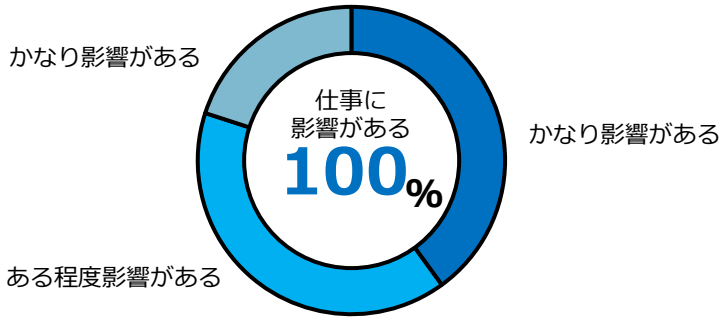
導入事例：日鉄興和不動産



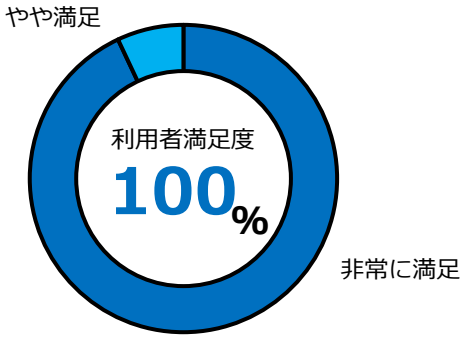
日鉄興和不動産株式会社

女性が安心して働ける職場づくりを目指し、女性向けセミナーの開催や生理用品無償設置を実施。
トライアル期間中に利用者アンケートを行い、高い評価を得たことから正式導入を決定。
利用者の声を活かした環境整備を進めています。

生理に伴う体調不良によって
仕事への影響を感じることはありますか？



本サービスの満足度について



利用者の声

「生理による突然の離席」をなくし、業務効率を改善

突然生理が来て、ナプキンを持っていない場合、ビルの下のコンビニへ購入しに行く必要があり、
戻るまでに30分ほど業務を離れることになります。

ナプキンをビル内に設置することで、従業員の負担軽減やパフォーマンス向上につながり、
結果的に経費削減にもつながると考えています。

導入事例：九州産業大学

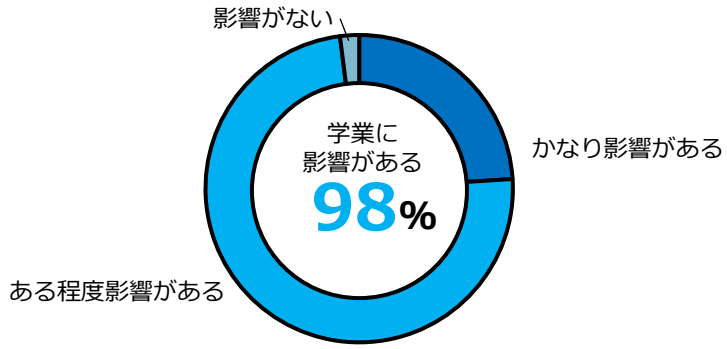


学校法人中村産業学園
九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部

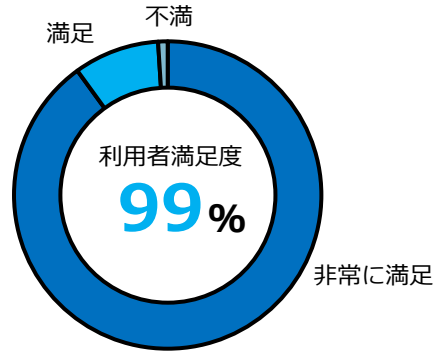
DE＆I
KYUSAN-U/ZOKEI-C

誰もが安心して利用できる環境を継続するため、衛生性と管理性に優れた本ディスペンサーを導入いただきました。清掃や補充の負担を軽減し、快適で清潔な利用環境の維持に貢献しています。
耐久性・耐水性にも優れており、災害・非常時にも安心して利用できる環境づくりにつながっています。

生理に伴う体調不良によって
学業への影響を感じることはありますか？



本サービスの満足度について



利用者アンケートの結果、生理用品の設置は高い満足度を獲得し、心理的な不安や負担の軽減に寄与することが確認されました。また、生理による体調変化が学習機会に影響を及ぼすことが示されており、誰もが安心して学べる環境づくりの必要性が改めて明らかになっています。

Section7

「あって当たり前」を手間なく始められる「2ヶ月お試し」トライアルキャンペーン

2ヵ月間
完全無料

設置工事
不要

手間ゼロで
PoC



手ぶらで始められる、本格 PoC パッケージ **0円**

ディスペンサー貸出
設置工事不要

＋

2 ヶ月分のナプキン提供
約 2 ヶ月分の生理用ナプキン（ソフィ ボディフィット）をまるごと提供

さらに

アンケート調査代行
個室 QR コードによるリアルタイム調査とデジタルサーベイ（Google Forms 等）での全体調査を代行。

本当に必要？ を**数値化**して報告します。

継続希望率	リアルな声
満足度スコア	コスト試算

今なら…

利用促進ステッカープレゼント！

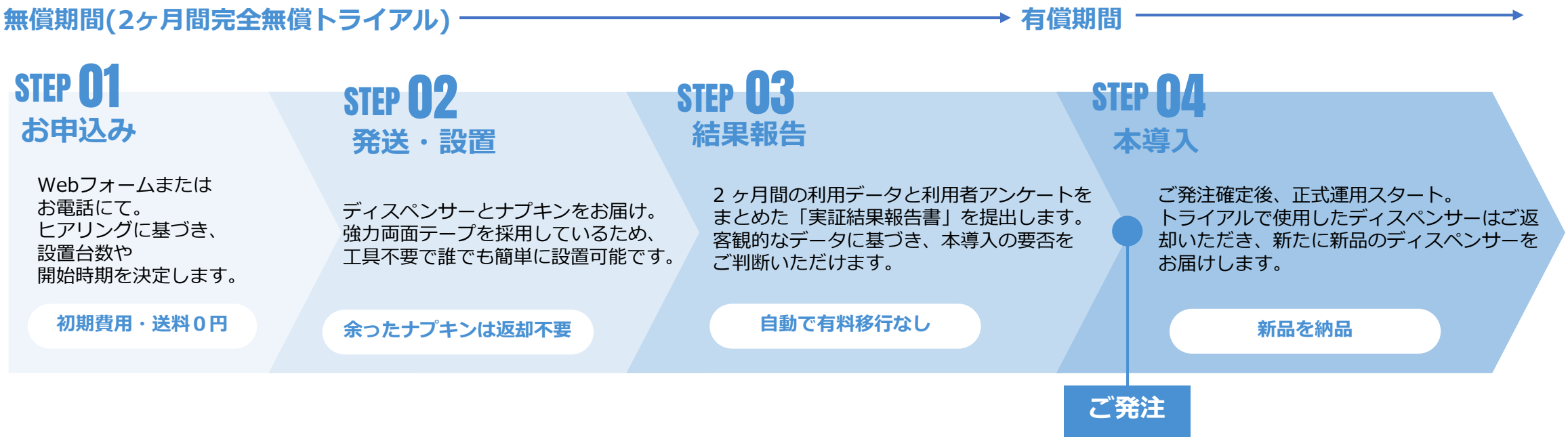




Section7

お申し込みから本導入までの流れ

ご発注いただくまで費用は一切発生しません。安心してお試しいただけます。





安心して過ごせる環境づくりを
まずはご体験ください。

急な生理による不安をなくし、誰もが安心して過ごせる環境づくりを。
チャームアクセスは、職場や学校、様々な施設で導入が進んでいます。
導入前に利用状況や運用負担を確認いただける実証実験型無料トライアルも
ご用意しております。お気軽にご相談ください。

株式会社日本電商　営業企画グループ

TEL: **06-6233-6351**